

☆妄想ノート～奴隷を夢見る女の子 s o f t

みさお

☆☆☆☆☆☆☆☆

【ミサオ】

主人公、通称ミサちゃん、一人称：あたし、ご主人さまの妻

【ミオ】

主人公の学生時代の先輩、通称ミオさん、一人称：私

【ご主人さま】

主人公の夫、名前は出てきません。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

※オムニバス形式の小説ですので、お好きな章からお読みください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆

目次

結婚式	1
奴隷は女のしあわせ？	4

サですので「Misa」と刻印されています)、裏側には「I
long to my master」と刻印されています。

奴隷は女のしあわせ？

「ふつつかものですが、よろしくお願いします」

三つ指ついてご挨拶。

突然、彼はあたしを肩にのせると、そのまま寝室に運ぼうとする。

「こんな荷物みたいな運び方イヤー！ちゃんとお姫様抱っこしてください」

あたしが彼の背中を叩きながら抗議すると、

「生意気な女だな」

彼は、あたしのお尻をぶって無造作にベットに放り投げる。

もう、酷い！

でもベッドでは一転、彼のとろけるようなやさしい愛撫。

「ああっん、もう。あなたは女の扱いを良く知っているわ」

「静かにしろー！」

あたしは素直に口を閉じる。だって女の子は素直が一番だもん。

そして暗闇の中で聞こえるのは、あたしの小さな喘ぎ声だけ。

翌朝、目を覚ますと、あたしは急になんだか嬉しさと悲しさがないまぜになって、彼の胸に顔をうずめる。

泣きじやくるあたしの頭を、彼はやさしくなでた後、あごに手を添えてキスしてくれた。

「お前は俺のものだ」

「はい、あたしはご主人さまのものです」

この時、初めてあたしは彼のことを『ご主人さま』って、自然に呼ぶことができました。

ご主人さま、ご主人さま、ご主人さま。

なんて素敵な響きでしょう。

彼は男で、あたしは女。

オンナ、オンナ、オンナ。

あたしは生まれて初めて女であることが嫌でなくなりました。それどころか、自分が女であることが嬉しくて堪りません。

オンナ、オンナ、オンナ。

彼は男で、あたしは女。

彼はご主人さまで、あたしは彼のもの、彼の奴隷なんだわ。

ドレイ、ドレイ、ドレイ。愛の奴隷だわ。

『奴隷は女の幸せ』っていう古い諺がふと頭に浮かびました。なんて女を馬鹿にした嫌な諺だろうって思ってたけど、女の本質をよく表しているわ。女は奴隷になって初めて本当の女になるんだわ。女は奴隷になって初めて本当の幸せを知るんだわ。

奴隷でない女って可哀そう、だってまだ本当の女の喜びを知らないんだもの。

男の人って可哀そう。だって男の人は決して知ることがないんだもの。

そう思うと、なんだか男の人が可愛く思えてきました。

男の人って、すぐ女を見下したり蔑んだりするけど、もうそんなの気にならないわ。

それに、男の人に馬鹿にされり、からかわれたりしても、男の人に構ってもらおうのって何だか嬉しい。

そういえば、子供のころ男の子にスカートめくりされた時、とっても恥ずかしかったけど、なんだかどきどきしたことを思い出ししました。他にも階段を昇っている時、下からスカートの中を覗かれたり、海で水着をチラチラ見られた時なんかも・・・

あれって嬉しかったんだわ。

男の人ってとってもHだけど、本当は女の方が嫌らしいのかも・・・